

企画展示のご紹介

コガネムシの世界

- 期間：4月22日(土)～5月7日(日) ※4/26(水)は休館
- 会場：こんちゅう館内多目的ホール
- 内容：色彩豊かなカナブンやハナムグリ、長い前脚を持つテナガコガネ、動物の糞に集まる糞虫たち、立派な角のカブトムシなど、コガネムシの仲間は外見や生態が魅力的な種類がたくさんいます。身近な種から遠く離れた海外の種まで、美しくてかっこよくて不思議な「コガネムシの世界」をお楽しみください。生体の展示はもちろん、金属のように輝くプラチナコガネ、世界で一番重い昆虫の1つといわれるゴライアスオオツノハナムグリなど、標本も多数展示予定です。



イベント案内

- 3月 ①第1回むしむし動画コンテスト・第10回むしむし写真コンテスト 優秀作品展：開催中～26日(日)
- ②バックヤードガイド「飼育室ツアー」：4日(土) 13:30～14:30 ※2
- ③虫講座「カブトムシクラブ」：12日(日) 13:30～14:30 ※2
- ④ぱたぱたパタフライ：19日(日)、26日(日) 10:00～11:30・13:00～14:30 ※2
- ⑤森の音楽会：21日(祝・火) 13:30～14:30 ※2
- 4月 ⑥バックヤードガイド「飼育室ツアー」：8日(土) 13:30～14:30 ※2
- ⑦植物公園共催・みどりと虫講座「春の植物と昆虫」：23日(日) 10:30～11:30 ※2
- 5月 ⑧虫講座「コガネムシのはなし」：7日(日) 13:30～14:30 ※2
- ⑨バックヤードガイド「樹木園ツアー」：20日(土) 13:30～14:30 ※2
- ⑩虫さがし「初夏の昆虫」：21日(日) 10:30～11:30 ※2

※1. 様々な事情により、中止・変更などの可能性があります。  
 ※2. ①以外は、すべて「事前申し込み制」です。  
 ※3. 「事前申し込み制」イベントの募集定員数は、各回とも25名程度。応募多数の場合は抽選となります。  
 ※4. 申し込み方法、締切日等の詳細につきましては、こんちゅう館のホームページをご覧ください。

こんちゅう館 News 新シリーズ Vol.12 春号 2023年3月1日

編集/発行 広島市森林公園こんちゅう館

〒732-0036 広島市東区福田町字藤ケ丸 10173 番地  
 TEL (082)899-8964 FAX (082)899-8233 HP <http://www.hiro-kon.jp/>

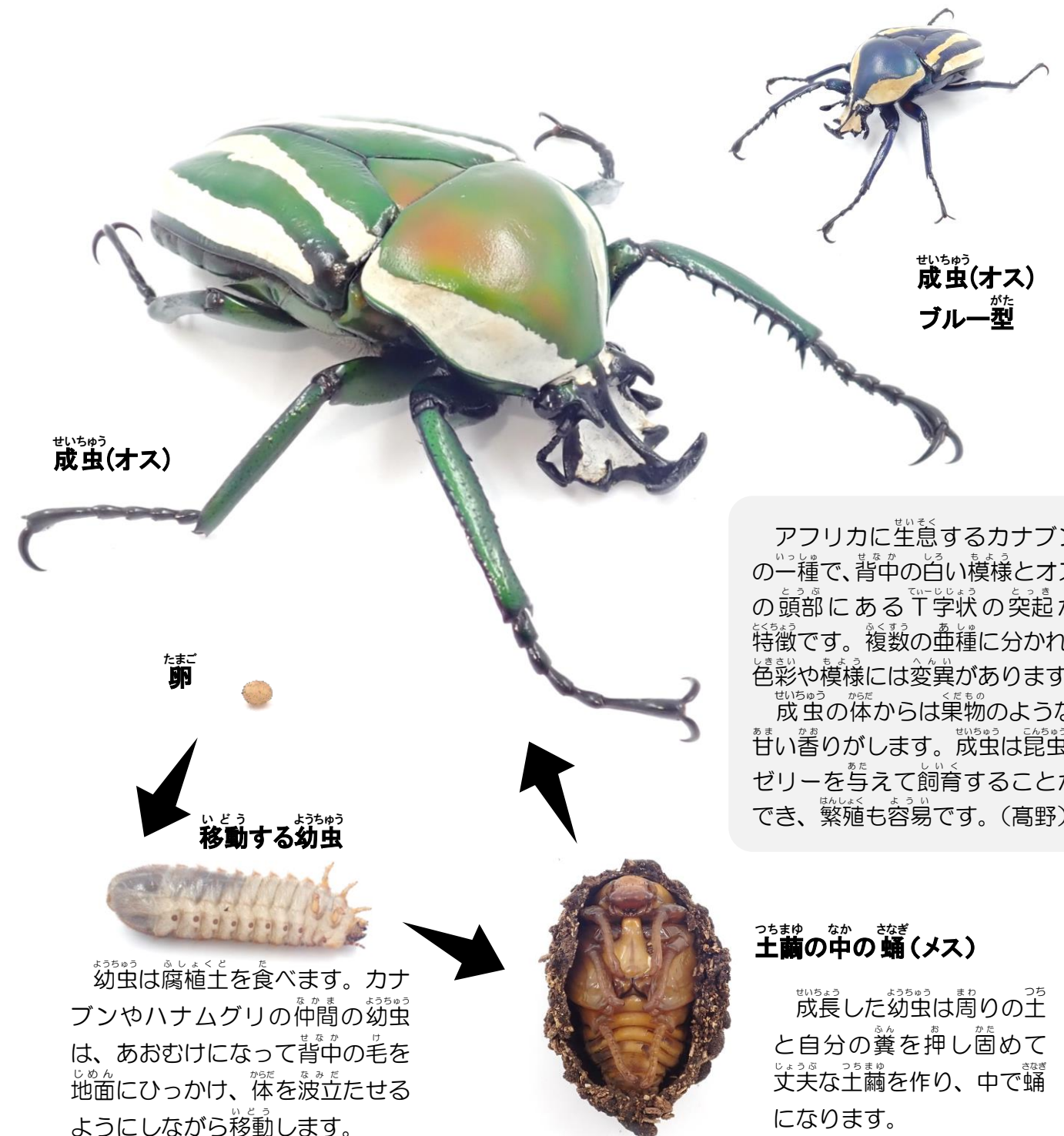
こんちゅう館 News

ひろこん春の企画展「コガネムシの世界」 企画展のスター

シロスジオオツノカナブン

*Dicronorhina derbyana*

コウチュウ目 コガネムシ科 ハナムグリ亜科



アフリカに生息するカナブンの一種で、背中の白い模様とオスの頭部にあるT字状の突起が特徴です。複数の亜種に分かれ、色彩や模様には変異があります。成虫の体からは果物のような甘い香りがします。成虫は昆虫ゼリーを与えて飼育することができ、繁殖も容易です。(高野)

幼虫は腐植土を食べます。カナブンやハナムグリの仲間の幼虫は、あおむけになって背中の毛を地面にひっかけ、体を波立たせるようにしながら移動します。

成長した幼虫は周りの土と自分の糞を押し固めて丈夫な土繭を作り、中で蛹になります。

職員の推し虫

# タガメ *Kirkaldyia deyrolli*

カメムシ目 コオイムシ科

こんちゅう館職員の“推し虫”を紹介するコーナー。今回の“推し虫”はタガメです。



オタマジャクシを捕まえた幼虫



卵の世話をするオス成虫



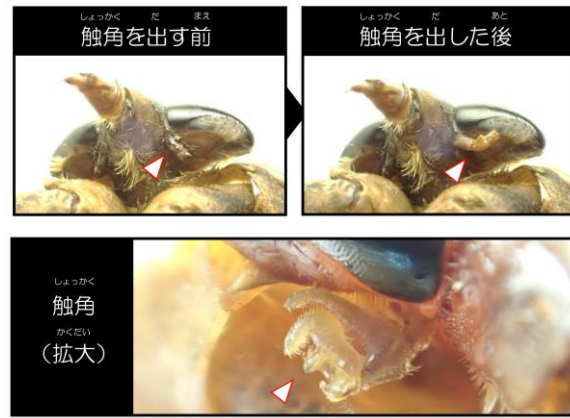
## タガメ とは？

“田亀”という名前のとおり、おもに田んぼでくらしている、日本最大の水生昆虫です。自分の体よりも大きな魚やへびまでも食べてしまう、恐ろしいハンターです。

田んぼの減少や農薬などが原因で、日本各地でタガメの数が減っています。広島県では絶滅危惧I類に選定されていて、野外で見かけることはほとんどありません。(久我)

### お推し① 隠れた触角

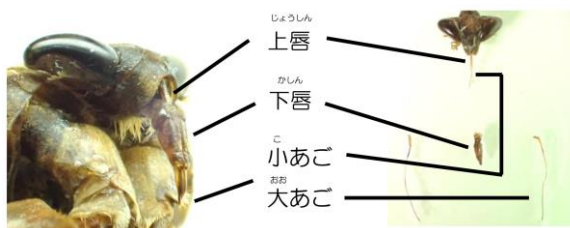
タガメの触角は、通常見えません。タガメをひっくり返して頭部をじっくりさがすと、複眼の下の溝に隠れた触角が見つかります。溝からひっぱり出された触角は、まるで手のような形をしています。



### お推し② 複雑な口

タガメは捕まえた獲物に針のような口を刺し、消化液を流しこみます。そして、獲物の体内をどろどろに溶かして吸います。

この口は4つのパーツでできています。



消化液や溶かした獲物は、左右の小あごのすき間を通して、体内に運ばれます。

チョウの小話 ② ~スプリングエフェメラル~



『スプリングエフェメラル』とは「春のはかない命」という意味で、昆虫では春先だけ成虫が出現する種をそう呼ぶことがあります。チョウでは特にギフチョウが有名で、『春の妖精』とも例えられます。広島市では、ギフチョウの他にもミヤマセセリ、コツバメなどの『スプリングエフェメラル』を見ることができます。

森林公園内では、かつてギフチョウを見ることができましたが、現在では全く見られなくなりました。植生の遷移（移り変わり）やシカによる食草の食害が、原因だと考えられています。広島市ではほとんど見かけることはないですが、もし見かけたら優しく見守ってあげてくださいね。(佐藤)

こんちゅう館フォトギャラリー ② 南西諸島の調査で見かけた昆虫



◀ イワサキクサゼミ  
*Mogannia minuta*  
セミ科

南西諸島に生息する日本最小のセミです。また、日本で最も早くから鳴き始めるセミで、3月から鳴き始めます。サトウキビ畑など草むらでチー、チー・・・と体の大きさに似合わないような大きな声で鳴きます。

マダラコオロギ ▶  
*Cardiodactylus guttulus*  
マツムシ科

名前にコオロギとありますが、マツムシの仲間です。秋に成虫が発生するので、秋の調査では沢山の個体を観察できました。主に夜間ジツ、ジツ・・・と目線位の高さの葉の上で鳴きます。夜行性ですが、薄暗い林道では昼間でも見かけることがあります。



マダラコオロギ(メス)